

令和3年産 主要農作物の生育状況

秋まき小麦	<p>播種期 (9/28) は平年より5日遅かった。根雪が遅く、一部凍上害が発生したが、越冬状況は良好であった。起生期 (3/30) は平年より1日早く、起生期の茎数は平年よりやや多かった。出穂期 (6/6) は平年より1日遅かった。6月上旬以降の少雨と7月中～下旬の高温・干ばつ天候であったが、登熟は緩やかに進み、成熟期 (7/20) は平年より1日早かった。生育期間を通して日照時間が平年より長かったことから稈長、穂長は平年より長く、穂数は平年並であった。収穫期間は好天により収穫が順調に進み、収穫始 (7/24)、収穫期 (7/27)、収穫終 (8/1) は平年より1～2日程度早かった。千粒重はやや小さかったものの1穂粒数が多く、製品収量は平年を上回った。品質は平年並であった。</p>
ばれいしょ	<p>植付期 (4/21) は平年より7日早かった。4月下旬の多雨・低温等で萌芽期 (5/21) は平年より1日早くに留まった。萌芽後、平年並の天候に経過したため、開花期 (6/22) は平年より1日早かった。6月以降の少雨により生育は鈍化し、8月1日時点の茎長は平年の80%程度と短かった。7月中～下旬の高温・干ばつにより茎葉の黄変・枯凋が進み、茎葉黄変期 (8/3) は平年より3日早かった。収穫作業は順調に進み、収穫期 (9/2) は平年より6日早く、収穫終 (9/13) は平年より13日早かった。1株当たりの上いも数は平年より多かったが、上いも1個重は平年比60%と小さく、規格内収量は平年を下回った。でんぷん価も平年より低かった。</p>
豆類	<p>大豆は播種期 (5/14) が平年より2日早く、開花期 (7/15)、成熟期 (9/20) は平年より4～6日早かった。生育は良好で着莢数や一莢内粒数は多く、登熟も順調で収穫期 (10/7) は平年より10日早かった。収量は平年を上回り、品質も良かった。</p> <p>小豆は播種期 (5/15) が平年並、開花期 (7/22) は平年より3日早かった。7月中～下旬の高温・干ばつにより開花始期の花落ちが目立った。成熟期 (9/16) は平年より2日早かったが葉落ちが緩慢で、収穫終 (10/18) は平年より1日遅かった。百粒重が小さく、収量は平年をやや下回った。品質は平年並。</p> <p>金時・手亡の播種期 (5/28) は平年並、開花期 (金時7/13・手亡7/20) は平年より2日早かった。成熟期 (金時9/4・手亡9/15) は平年並であったが、7月中～下旬の高温・干ばつによる着莢の遅れや9月の低温により登熟・葉落ちが進まず、収穫終 (金時10/4・手亡10/15) は平年より10～14日遅かった。金時・手亡の収量は平年を下回った。品質も平年よりやや劣った。</p>
てん菜	<p>播種期 (3/11)、出芽期 (3/18) は平年より2日遅かった。移植期 (4/29) は平年より1日早かった。移植後すぐに降雨があったことから活着は良好であった。6月以降は降水量が少なく、高温・干ばつ状態であったが、生育はおおむね順調に経過した。8月下旬以降は気温、日照時間がおおむね平年並に経過し、根部の肥大は順調に進んだ。収穫始 (10/13)、収穫期 (10/28) は平年並であったが、10月下旬以降の多雨により収穫終 (11/8) は平年より2日遅かった。収量は平年よりやや多く、根中糖分は平年並であった。</p>
ながいも	<p>植付作業は、平年と同日の5/10に始まり、終了は5/25で平年より1日早かった。萌芽は、植付の早かったほ場も含め総じて順調に進んだが、揃うまでにやや日数を要したほ場も一部で見受けられた。萌芽期 (6/6) は平年より1日遅く、萌芽期以降降水量の少ない状況が続いたため、茎葉の伸長はやや緩慢であった。その後、8月末まで茎葉の生育は平年を上回ったが、9月以降は平年を下回った。</p> <p>一方、新しいもの伸長は概ね順調に経過した。肥大調査では、いも長は概ね平年並となったが、いも重は8月中旬以降、いも径は9月中旬以降平年を上回る傾向で推移し、収量性は平年より優れた。品質面では尻部の乾物率が高く良好であったが、8月のまとまった降雨により、リング、コブ、尻や表面の割れなどが一部で散見された。</p> <p>※JA帯広かわにし管内の作付品種が「とちかち太郎」に切り替わっており、平年比は参考とする。</p>
牧草 (チモシー)	<p>萌芽期 (4/9) は平年より2日早く、気温の上昇とともに生育は順調に推移し、1番草の出穂期 (6/8) は平年より2日早かった。収穫始 (6/9) は平年より5日早く、その後は順調に進み収穫期 (6/18) は平年より6日早かった。その後も順調に進み収穫終 (6/24) は平年より12日早かった。雨水不足の影響もあり、10a当たりの1番草収量は2,698kg (平年対比93.8%) となった。</p> <p>2番草は高温、小雨傾向の気象が続き草丈が短く推移した。収穫は天候に恵まれ収穫期 (8/23) は平年より6日早く、収穫終 (8/29) は平年より9日早かった。こうしたことから、10a当たり収量は1,075kg (平年対比67.8%) であった。年間合計収量は3,773kgと平年対比84.6%となった。</p>

サイレージ用 しんじょうもやし	<p>播種作業は順調に進み、播種期（5/6）は平年より4日早かった。生育は6月下旬以降小雨傾向だったものの高温傾向が続き、雄穂抽出期（7/24）、絹糸抽出期（7/25）は平年より3日早かった。その後は気温の変動が大きくやや高温傾向だったこともあり糊熟期（8/28）は平年より7日早く、黄熟期（9/11）は平年より4日早かった。</p> <p>収穫始（9/6）は平年より2日早く、収穫作業は順調に始まり、天候に恵まれ収穫期（9/17）は平年より6日早かった。その後も順調に作業が進み収穫終（10/8）は平年より3日早かった。</p> <p>生総重は、10 a 当たり 6,280kg（平年対比 100.0%）、TDN収量 1,214kg（平年対比 108.4%）となった。乾物率は 27.2%と平年より 1.9%高かった。</p>
--------------------	--

作況調査概要及び10a当たり収量

作物名		生育状況						10a当たり収量		
		調査基準日	項目(単位)	数量	項目(単位)	数量	項目(単位)	数量	本年(kg)	平年(kg)
秋まき小麦 (きたほなみ)		7/15	稈長 (cm)	79.5 (74.6)	穂数 (本/m ²)	693.1 (706.0)	穂長 (cm)	9.2 (8.9)	741	595
馬鈴しょ	食用 (メークイ)	8/15	莖長 (cm)	55.5 (68.2)	莖数 (本/株)	4.8 (3.8)	-	-	3,043	3,231
	加工用 (トコ)			50.0 (66.4)		3.3 (3.2)		-		
大豆		10/1	莖長 (cm)	73.6 (72.1)	葉数 (枚)	9.5 (10.1)	着莢数 (個/m ²)	557.6 (530.7)	317	281
小豆		9/15	莖長 (cm)	64.0 (58.9)	葉数 (枚)	12.0 (11.4)	着莢数 (個/m ²)	436.5 (369.0)	252	269
金時		9/1	莖長 (cm)	56.0 (52.2)	葉数 (枚)	4.3 (4.4)	着莢数 (個/m ²)	117.7 (133.5)	87	166
手亡		9/15	莖長 (cm)	76.2 (60.1)	葉数 (枚)	8.4 (8.2)	着莢数 (個/m ²)	172.7 (213.6)	195	200
てん菜		10/15	根周 (cm)	42.4 (41.1)	-	-	-	-	7,545 (16.4)	7,078 (16.9)
ながいも	川西地区	11/1	いも長 (cm)	72.3	いも重 (g)	1,331	いも径 (mm)	77.0	4,382	3,618
	大正地区			79.4		1,278		66.7		
牧草		1番草 6/15 2番草 8/15	1番草 草丈 (cm)	99.7 (107.4)	2番草 草丈 (cm)	104.0 (94.9)	-	-	3,773	4,462
サイレージ用 とうもろこし		9/1	稈長 (cm)	298.2 (287.2)	葉数 (枚)	17.8 (17.6)	-	-	6,280	6,283

注1) 生育状況：帯広市農業施策推進委員会調べ。下段()は平年値

注2) ながいもの平年値については、JA帯広かわにし管内の作付品種が「とかち太郎」に切り替わってから3年が経過していないため、記載していない。

注3) 10a当たり収量における平年値：帯広市調べ。てん菜下段()は糖分

注4) 10a当たり収量における本年値：帯広市推計値

注5) 10a当たり収量：秋まき小麦はきたほなみ、ゆめちからを、馬鈴薯は食用、加工用、澱粉用、種子用を含む。